新し玉の緒

（五）

ホ 2
540
4

水2
號 5407
書 4

昭和36年5月9日
平野金之助氏
寄贈

36. 606

錦華堂

や

おとゝ。紐後の中の詞乃信と詞辞とを。一の声に出する三物徒奇乃おとゝ。そのやゝ何の男ハ。結びの辞はじき中ふ。やゝ何を結ひの辞ある所ふ。おのづゝんとそやゝ与あゝして。ふおどゝ。ゆゝハおゝかゝぞ

○親ゝねをゝて結ぶや

古一 くもふ風ゝとゝるこゝろ詞を互ごふうちゆる波や者のえゝもゝ

後拾 古 いつとなくこゝろをあるとゞこひや ふゞ詞を花ふかゝ保ふ者

千四 てる月ハきゝび林の京や 走ゝゝゆふかづゝきゝのたふ川のゝ

新九 こゝ とや さは者詞をゝふゝるとゝきゝたつてゝ者ぬ天乃を衣

万一 こゝ とや ふのやまやゝてハとゞこふるきゞかきゝふゝふかふせのゝ

月十六　ちとや　この名ふるふる門のうづしをふる蘆うるそふあめをそあどと
いせ　こと　や　この天のえごろと　こべしをあがみきしこたてまつりけり

又

金四　ちり　名ハ吉野はなの桜ちるく　ゆよりとこや　小野山のあをはなびしさ
ゆかた　ちり　みぞるふりつりはるをのちるとびのしたきせぬ和や　まろが名のうさ
こそこそハ色のさびしさまろがうのうさをどハ初〳〵用の言葉を初る躰の体
よりひをして結びくるるのちり

新一九　いそぐ川そしや　まぐ紅ふ紅の葉下はいそひ結松のゆふうだ
色ハやのふをそく紙といふとへくまでへハかくらび紙をちの紙をやど
てトへも用て紙の葉とつきくしされむ上のことハいそぐ川そやまどき
よ紙ちん紙の葉のちるといふましひちのす三のまものの結まといへと
まく

千十六　たりひ出よゆふべ乃をとたゆびらばこと　や　歌きふたへぬりふりと

新八　ひとをとはをわが身結とて　や　歌みどりつひよハ世べの歌しおりへで
月十六　色ぐりうひてえし　や　そをとをとをとをぬまふをぐをとは　よその月新
ちをとをやの結びを知ねまをとをとを夜て下へ結ぐりをとし

○いひうをあて結ぶや

後十六　こと　や　ちのゆくをとをとをもをかをつちる古ちをぬもけふ仮のせき
月十七　難波はををふををみつの浦どにこと　や　このよ紙うをををる紙
後十六　あらきあくをひをこをやをつをぐををとり　や　ぬでの山吹乃花
金三　赤時をちるかふいづるりち月結ふこよひ　や　けふさう結実
新十二　山ぐ川の麻結さごろををををけるこあをで月日　や　をぐふる歌
月四　秋の夜結月　や　をし海のあぬのけるを　歌をちかきおきの結り紙

同云　かゝふしき秋のうこゝに　や　ふるくふり　萩あへぬ枝ふりしふくも

同十　みやこゝとゝや　や　ちゝとをうつの山　夕霧ゝふたゝとの下さ

同十一　うつきみけなゝ孫　や　ゝゝふめりけ家　ゆゝゝへぬ袖を人のゝふさ

拾十九　ゆふゝけくゝて　や　つひふやゝの秋の月ひもいそぬ人乃ゝめゝは

けさハやゝをんゝいふゝゝふいひみゝゝゝゝの雲れ秋ゝて切ゝぎゝてのゝとゝひて
下へつきゝゝゝゝハゝべての格と異ゝそのゝ紀のいひゝをふも此格あを

○切ゝゝ　や　後のゝぢゝをふゝゝ　や

古十七　書ゝふる家ゝなゝ形るをゝゝゝべゝゝかのがゝをむ世のゝむゝゝゝ　や

後四　數ゝゝぬゝゝがゝゝ山べ乃ゆゝゝきゝを本紫ゝがゝゝを形ゝ形ゝハきゝゝ　や

後拾十　ゝゝゝぐやゝゝれゝりひやゝふゝぐふ秀ゝきをいゝふぞゝ為ゝが袖をゝくゝりぬ　や

同十八　うかりきゝみのふの浦乃うつせ貝ひゝゝゝれゝのゝゝゝゝハきゝれ　や

同十一　ゝゝれゝ本はゝゝそなゝがゝゝゝゝを枯ふゝ乃ゝを布むゝゆゝゝ　や

同十六　ゝゝゝもゝりゝぬハゝれ　山ふきゝ波ゆゝゝゝゝいゝぐゝをりふゝん　や

新古上　雜殿ゝゝみゝゝゝれ芦のゆゝれまゝゝ付をゝゝてよゝ　や

同十六　おりひゝゝ　や　みのゝをゝ山のゝゝゝ松雜ゝゝゝハいつゝゝ沢

詞一　ちゝ花をゝゝゝゝ

古十　彼のこゝ[illegible]ぞみぎりそうみかゝん。や

後十八いせ条　[illegible]ゆるゝ[illegible]ん。や　[illegible]ゆる[illegible]

たのゞゝんやとふと文[illegible]

又

後拾十六　かゝる本[illegible]の下[illegible]ふ[illegible]や[illegible]め[illegible]。や　[illegible]

大和物語　[illegible]ハ[illegible]ふ[illegible]ねと。や　[illegible]

後拾　あふ坂をあかゆきうつりまゞゝと。や　[illegible]

件のあゞとのゞゝなゞ[illegible]ハ。[illegible]

切きさるやうゝ。又[illegible]

後撰八[illegible]ふゞ[illegible]や神[illegible]ハ[illegible]

ゞらやうれたやとひそつと[illegible]

[illegible]

そうくゞつふらんと[illegible]

[illegible]

月[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ゞ[illegible]ゝてやとひて切[illegible]

きこえ。切きされバやの[illegible]

あゞよ[illegible]ひのやゝ。[illegible]

のゞぢゝふ[illegible]て切[illegible]の二つをておのゝ上より[illegible]言[illegible]格[illegible]定まり

あり。[illegible]ふゝやの上[illegible]

おきて切るやの上ハ。[illegible]格の辞より[illegible]定まり[illegible]。[illegible]格の辞[illegible]

[illegible]。切ゝ格の辞とハ。[illegible]の[illegible]

一の[illegible]

[illegible]

きて切るやの上を[illegible]辞より[illegible]ハ。[illegible]人[illegible]おのづゝ[illegible]

きまて。一つと[illegible]

[illegible]格の辞より[illegible]

で。あるやあるやといふが定まりて。あるやあきやといはぬぞ。
定まる後の右ばかりて切る詞。あるあきハ中切りそれ次ぐく詞べ。形容体ナ七あるとみるべ
つるきんもつるやとそるあつまのまふわるんことぶくしつるやとそるべき
枝し風雅なるもの　又あるきやあるきやとやしにきやといふが定まりなて。
ひあやまりつり

つるるやあるるやをぐくハいそぐ。又そぐやきるぞやあどやしにぞや
くいふがさぐまりそて。そんぬやきるぬやをぐくハいをぐ又ぬやゆるやと
いふが定まりそて。又ゆるやゆるるやゆるるやをぐくハいそぐ。右いづれかゆる詞
てきまきまるべく　まべく体のそぐめに到て切るやの上ゆ。みるんの格くんなぐく。
そて又体のあるぐにあくやの上ゆるやゆるるきやるるきやるるきやるるやう
ふつぐく詞より成るすし。体とことふあるぐくへてんなべく。ことハやゆ
ぐいづるのてふをはふと皆体ぐくゆる詞より成るるゆ定まりハゆるすし。
古人の説をよくゆるてみぐりにもべるべ。中にゆるるもかのづくるよくゆるまへて語るゆる

古一

うぐひすの笠りゆふてゆふてゆふてゆきぐ　花のかぎりそのゆるてかぐくん老かくるる。

円ナ　花のかぎりゆふるくやとて。ふゆきぐ　ゆぐそるとゆちりぬべくるる

円十九　ありぬやとちろえぐそるつるひえくびたくぶるるまでぐそるき
こるくハやとるるをとるえて下へべきくるし

九八　あのいのちをくとゆハるべゆをえでやとゆぞかるくるるき

円十九　人ちるぐいまやいまやとちゆゆ神さぶるまでゆをくそるまて
こるくハ実ゆ切るやよハあるくべ。体のあるぐふるくやるくゆ下の言をえぶきて
ゆををふくえて。やそ切てぐるくしれきるくハゆとえでやそるんとゆふ
ぐるるかりるといふことるるを。乳るんといふゆとるぶきて。ゆをとをふくの。ゆたく
るくハ行やあるくやあるくやるとゆるるくるくるく

○やを言ある句くるぐ

古一　身はしらふまハまふ月一らせをこぞ〳〵やいとんこう〳〵とやいとん

月十八　美あぐふをてすかく〳〵ゆくハ恋やいを孫ぬ人やらそ多く

計八　ようもがく苦はちらぬえつう郎かくやうゝ〳〵よや美

俳氏夕秀　あらゝ花をといふもりてらなぐさをんつるやゑきをきやうき

古三　秋やらくきそやまぐ〳〵はうくきを恋やどをゝもるがそふちく

月十三　ゑやこうまれやけきんたとゝぐ美ゝうつう孫てう法をてう

月十八　月やうゝぬゑやひゝはゑもうゝぬ恋ハ女の牙すて

凡一ゑゑ花やゑかゑゝやうぐりはゝ〳〵ぬふぐはるゑ

古八　えぐゑゝぬやこうゑえよ命ゆゝゝば孫やゑゝ人やゑそぬと

月一　ゑやゝき花やあそきゝきゝうとかん考じかゆとあるぐもゑうあ

月十三　ちぐやあんきやせんとの〳〵川巻はまけのんをおりひやらをん

古十四　ゑやこん彩やゆうんのいさよひふ高れ板戸もさ〳〵孫ふ月

ちのうたハこゑなるばふあ〳〵やのきゑゑる八

又切〳〵やのきゑゑる八

計十七　ちの川かゝふゝきゝゝゝちゝうん和茶はゑゑるやちぐやや

千十四　こすぬやえのぶやいふゆうはえぬまはれえと女〳〵あきぐ月の元

計十三　夕美ゑう〳〵命かけゝゑゑぐゑふのあるやゆゝぐやうふもえかゑ〳〵

千十二　ぬのえとやいきとやいふいふいふ松乃ちぐゝと結〳〵郷もへふりと

古九　ふふ〳〵おそぐゝぐちゝうんみやこゑるとがゑふ人ちゆりやゑとやと

又

万四　かくしてやあやまかんん近くねそのあひざをあづこまぬきて

同七　くしてやあやや老あんみ吉野の古荒木住ちうなるくふ

そもそハあうぐにおくやあるが。まひぶよあつくかうて二つのやをゆくそ。一つふ

結びうりの。古とそ来よりこあくさのハ此橋をー　又

千十七　こまやゆえいづきうつそうれうれひとぐそもるねべきう郡

きとハやとかくをきよりきづし

○やはとたぐく橋

後十三　ゐふまどゆうねどゆうく泉神乃かくはふひかぎうねやあぐ

同十九　元祖のくあぶの里へゆくりの社を金津の山ちるきやあぐ

拾十四　ゐ川をちちんてづうくに芳ち人乃ちひきやあぐ

新四　萩が谷まい神ケかあて言ふ社尾上乃玉ふ谷ゆるやたき

春夏秋冬　信ちぐ郡ふまをせてけり松の帆ぐふえゆるかぐうやたき

古一　きづすくたてるやいづこみうくはたの山ふ雪を物りつて

同十七　ぬくやふまをうむいをあくにはうハあべてやはうれとうん

同　ゐぐふまをけふ小ぐ光やいづくとうろぎの神乃法ひけきふ山ふ以

玉三定恋　高わをん社けあうけき来かぐでみやこやいくうまうやふ

まうく

後三　うちうくうくきハさぐかりのどをきぐ花のうろやあふつぐらん

同　あぐふをなうくふ宮社菊あうバ玉のあうぐやいくよあうくん

後拾九　たぐつうみやこの光やいうくんちよひあうくけ月をうるあと

新十三　おきうるあるやいうあうくん今ハきえよくふあめを

又

摂門 五首 みるがゝふかゝろとらけむ先代乃松や□□結びおききん□

こゝハかゝをゝきゝり先づし

又

拾遺 五十 ちゝ雪はいのるや□ゆふの□向ていそぐ生田のりゝ社ゆふ

こゝハいのゝやゆふのたむきぞと知ゝきゝをやぞ下へつきゝりめづし

まゝ

後二十 あがつゆゝかゝゝやいづこぞ□ちゝゝやのゆゝゝあき宿ゝろぞゝあゝき

新十 世歌 みゝゝえかゝゝかゝゝやいづゝゝぞ□ゝをゝて永おをゝへよこのゝ社つり松

新拾 春 ゆきゆゝぬゝゝろゝやゆゆぞ□社のゆゝをハゆゆゝをこのゝじゝゝゝふを

ちゝゝハぞを作ゝり

又

後十 なゝゝぐゝ川ゆゝゝて麻えゝとゝゝゝゝのをゝゝゝゝゝのゆゝやなゝゝゝゝゝ

仕れを粧おゝり。二の方変格の新ゝ如せゝり考へえべゝ

又

新十三 きゝゝゝやいゝゝゝゝゝ

後五十一 後四十五 あぞ や かく思べでそ〜〜花ぞ〜きいろ〜〜なべり はゐハいづ〜〜ん
はゐハあぞやそてかゝしてはぐそハてふきそそのそば

大〜〜何号ぬ下ハ〜〜ゐかと〜〜ゐ例ゐ〜〜ふ。たのゞ〜〜なゞ〜〜ゐぞ〜〜の
二つの〜。やと〜〜ゐ例あり。その中にゐゞハかと〜〜ゐゞかゐ〜〜て。や〜〜
ゐ〜〜ゐハつ〜〜ち〜〜ぬ〜〜。なぞハやと〜〜ゐ例の〜〜そ。かと〜〜ゐ〜〜ゐ。
○ゐふゐ〜〜やい〜〜ゐ〜〜や ゐゞハ別ふ下のきやの係ゐ出せり

○やたけ〜〜のや

古五 う〜〜ゐ〜〜ちに花まちどやゐ有〜〜葉うつろふ秋ふ行ちんと や ゐ〜〜。
同十一 秋乃田ぬ下のう〜〜へをゐ〜〜ぬ行ぬ花のまゐ〜〜ゐ〜〜 や ゐふゐ。
同十二 ゐ〜〜ゐ〜〜ぞ〜〜ゐ〜〜ゐき和〜〜ひゐ〜〜ゐえぬ和〜〜 や ゐ〜〜かゐべき。

後八 りみぢ葉を時雨も洗〜〜しま紅ゐきそゆ〜〜ん人をふり や そゐぬ。
同十 雖ぬ〜〜ゐかりつゝ芦の沖〜〜づ行ぬ〜〜へも〜〜ゐ〜〜ゐ〜〜 や へぶつ。
古一 えてのゝ や 人り〜〜ゐ〜〜ん。ゐぢ〜〜ゐ〜〜ゐぞふ行て並づとふせん
右そみゐなかゞゐふゐ〜〜や し
仏下ハゝゐふゐ〜〜やゐり
古一 ゐふゝぞば昭月ハ者ゐゞそゆ〜〜ゐまり〜〜きんゞハ行ゐ花ゐとんま〜〜。 や
同十六 ゐ〜〜ゐ〜〜ぞ〜〜ゐ〜〜ゐふ〜〜ゐ純保ゞ〜〜ゐゞ〜〜ゐつ〜〜ふ〜〜ゐ〜〜ゐ〜〜ゐ。 や
後拾古 ちゐゞ〜〜ばさて紅人のま〜〜ま。 や 様の行〜〜ハ法〜〜ゐ〜〜ゐ〜〜ゐ
後拾三 小九道 きゐま〜〜。 や ゐ〜〜ゐ〜〜ゐ〜〜

新八　淺茅つゝそろへくおきしく茅の上の雪を眺見て。たりひうきや

宗砌　衣の雪　いつ〳〵をおりひうけきや　そろとがり〳〵かゝきんぬと。一のゝ雪の衣を

拾三　かりふゝそくべりゝ　や　秋の雪の笠ふる狩り日も暮ぬべし

新古　ちぎりきや　あふぬ夕くれよ雨おきしらつきがりかゝんをとゝ。

古八　おりひきや　雪のふるとは雪におろへゝ海士の縄うたいさりすんゝ。

後十　花りをきや　雪ふぬゝ沢いりよりとかぞふぞりにあさんものとハ

古八　ふゝとてハ美ゝゝぞ思ふおりひきや　雪ゆゝ多て雪をふんゝとハ

後二十　春は来乃美のゝちふとおりひきや　ふなき家をゆきてふんゝとハ

きべて思ひきやのやハきやはのゝとゝ。そて思ひきやゝゝへだかるゝびうはゝ雪

ぶの八をきうすゝ思ひかゝくゝ。ゝてゝのゝもひきづり

第四　衣の雪　おりひきや　ふゝのゝちをを思ひとゝゆゝふんゝと。

こゝ八ハゝでとゝゝそぢ色ゝゝりゝ

又ゝ雪を上ゝりおゝをゝ上ゝりを

後十六　きちこちゝ人色まれあゝ山里ゝ。雪ふんとハおりひきや　ふ

千十五　うれ人をあふべゝ。ハたりひきや　とがちゝゝさへあゝかちゝゝん

又上ゝとのゝおゝゝもあり

新十　年たゝてゝ人ちゝべゝゝ。おりひきや　今ゝゝ思ふ佐東の中山

又上ゝゝいひて下ゝとゝ又ゝそゝゝいつゝゝ。こゝハいりゝぞや

後十五　かけてゝぶゝとゝが雪ゝうへゝ。思ひきや　ゝん年春の花をえゝとゝハ

きべゝ思ひきやハゝゝ方をいひ。時ハゝちゝて思ひとよハ今のゝゝをいひ

てゝ。ゝゝと異ゝゝ沢。一つゝゝ思ひ長ゝ人もゝゝハ温し。赤の撫子の中にも。思

ひきやゝゝわゝべきゝと思ゝどよゝゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

○やえ

古一　きりぎすの乃やまハ[illegible]やえ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

月四　世〳〵〔やた〕ひろひうりそといりてせんむぐ〳〵ゆ家の秋乃いふぐき

此ものやたハ見づ〳〵きつるひざぬシトへづくやうるとぐ。ぬぐきてハてをそそ
のたぐ。切とてをふるめるやたシ

千古　人ぜてハさ〳〵もやた〔やた〕〳〵もひろやうんえせぎやえふなるてすぐをを

こまハやた〳〵切とるをとと丈てでけ〳〵り。後後ねきナセ如たあとバいろぶち
ゆとバ見ぐ[illegible]ハきこゆびゆやたぱやたハんねたぱ。数島のやこたを
[illegible]ふ者。とよとりう〳〵きろそろ

又一橋

古一　ぢて〳〵ゆ去くりを去るそ〳〵ぶと人のちろふりれ〔やた〕せぬ。

月二　ほそぎん新を生〳〵ぎ山ぶこそ不ふ乃ゆをちてへ〔やた〕せぬ。

新十六　おりひやふろろ世そに去ち〳〵やそれ出〳〵方をちてせ〔やた〕せぬ。

いせ系　秋の世ろり出〳〵き〳〵河花ぞ〳〵き見びふ永をまゆき〔やた〕せぬ。

保氏
世をつて　うちつをれ日かをそ〳〵ひかぐ〳〵そ見りん方り〳〵ろひ〔やた〕せぬ。

月
世のうた　永宮れ花乃いろこきたそそれふ者。〔やた〕せぬ。きれをごり代

後十一　道ろ〳〵ぐやを〔やた〕〳〵ぬ。亀坂乃実れあるくふ〳〵みく〳〵ゆし

件のこのぐとのやたハ一つの橋ほそ。初まの峯れんねぐ〳〵ゆ去〳〵ちのりとやそせ
ぬハ。ねる〳〵わろ乳ぬるすぐ。ちりをとよかし〳〵ら去ぐ〳〵へやそせぬを。伝ろそちろへぬて〳〵
ぐ。ろ〳〵へよかし〳〵ゆをを〳〵。ま〳〵のとこをふるぐ〳〵へてんれべ〳〵。後撰ゆ〳〵やを
そ〳〵をゆ世やをハせぬ〳〵ゆ〳〵ゆ日をの詩ゆり。

○やのをれやた

新十九　おく者り〳〵ゆをとかり〳〵ぬ柳紫乃ゆを〔やた〕人のをそそきろ〳〵ん

古十八　ゆれ井ハひり〳〵ゆを〔やた〕うかりきん。永ゆ江ろんのをゆふをめるゆ

拾十一　ゆををにのを足て〔やた〕こひん。ををなゆれまつひ弟乃ゆふいぞぞば

月十二　かづ〳〵きやを永〔やた〕久者の橋つり。あをゆく徳をねをを〳〵そりり

後拾十三　なを〳〵ぐ〔やた〕又をを行べきつりなを〳〵ん。ゆくゆり和のゆぐゆあぞをき

○ゆのをを日

[illegible]ばゝ[illegible]やゝ[illegible]
[illegible]やゝ[illegible]

後撰十九

[illegible]ぬ人の中にはゝ[illegible]ぬをまつ〳〵ん人の中にまつ　やえ

[illegible]やえ[illegible]。[illegible]を[illegible]。[illegible]やゝ[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

古一　ひあてそ　きつ　やや　きつん。ゆきのあきまどいせるきつ菓の姿

後三条院御製　さしもつのへぞ枝ふわつつ　はちつ花いそ　やや　きつん。たもふこころ者

万葉集　母のうふもと　ぞや　あぐさむ。　ひ　に　ひをきつぬちつりりと

右のあ〜ちるぞやハやすぐ枝下の枝の切〜布へうつして。かふ入てえれバよく咲

ゆしあ〜ぞやへよゆもえをべきハあ〜バ人よゆもえをべきゆしきあぞやえが面と

きとてうんハきあをえが面えすとてうんうし。バゆ東〜　孫ぞやうく時のあうんを

ハゆ東〜孫をわく〜ときのわうんゆし。きつ〜ぞやをきうんハきつ〜ぞをきうんゆし。いぞや

きうんハいきぐきうんうし。足ぞやあぐさひハ足ぞあぐさひうし。をかくのぐ〜ふ

てきき時うきし。○祇古七十八西行いぐきをきゆうぞやえよゆもをてあぐう

の姿やとさうに思ふん。是ハ学ぶうべくいひて。やをハあハとあぐいふやうの歌品の詞。さぞ

式辞ハあまハ例をく。ゆ上かく〜び西行ゆうハ式あもうう。又祇古戦一神ゆまをてきつ

ぞやきうんゆ見をこがきをえ和く〜ぞやとのきてよゆ〜きを。下のきうんくらふ河あま

くゆうて語きうし。ゆきうえハきつ

きう。又祇後撰きゆ九いう〜ハ。今ゆもあ〜ぞやゆうぐ〜思ひつきせゆうれきうく。こを

ハ見ぞやをあぞやく思〜いうやまきうきうをし

○右のあ〜ふ形ふきのぞやいうく。下の雑やの歌〜思せり

○えや　えやえ　えやも　ゆえ　ゆえ

きぐう　えハんのきうう雑うえ。えやハんやえのきし。いづきと

きゆきうう〜へうゆうえハふ身物。

古八　うえ〜うえバ秋なき時やけかぐうん花をそちうあ花さへうき　めや

月十三　きう祇きう〜おう神あ乃よ後きうきハつくきとあふいで　めや

月十二　秋なきば山うきうまで明花をうれおう〜　めや　独ゆうえを

月十八　こめや　うは思ふりのかう〜えぐう〜祇明夕ぐきはうちまうれて

祇一　義をもう花をえをてかつう　めや　おがつうあうと時をまりを

祇三　ゆきれ　めや　うゆえを苦に引むきびうきゆ祇べの高のうきぐの

古十一　たゆう〜わきバ出きうきわうをうひきを〜きひバうハぎう　めやえ

同十四　みよしの山の色は花なれどみのもみぢはなりそでとぞこひ　めやも

後十二　ちはやぶるかみのいがきの内にしもいとどしげくもなりにけるかな

古　景盛　ひとしれぬ思ひのあまの袖のうへにだれかはかけてわがこひ　めやも

後十二　あづま路のうの山のかなたなるあまの袖にかけてわがこひ　めやも

後十一　ちはやぶるかみのいがきにしめはへていくよ経ぬらん　めやも

　　めやもは多年をいくたりめやもとしかさねてもいつるき

　　めやもとは思ひもよらぬめやもとしかさねてもいつるき

古十二　はのかはかはのかはのしがらみとなりにけるかな　らめや

後十八　あづまのかはのかはのしがらみとなりにけるかな　らめや

後拾十二　ちはやぶるかみのいがきにしめはへていくよ経ぬらん　らめや

　　ちはやぶるかみのいがきにしめはへていくよ経ぬらん　らめや

○きや　ふるさと

古四　秋の野にあさぢふしのの白つゆは消なばかてにぬきとめる　きや

同　星はあまたに人はあまたなりけれどなほ秋の月にしかじ　きや

同十　くべきわびぬるかなぎぬ　きや　侍りびて明るまで待つ人をたよりに

同十一　いせの海にあまの釣舟とまりをぞ思ひつるかな　きや

同　うら風に浪のたちまさる海人のつりをする人のなき　きや

同十二　白がねにみがかれたる月かげは雲のうへまで　きや　おきてこそ

同十六　さ海の波のまに塩やき衣のそでをあまりまでわぶらん　きや　ぬれぎぬ

同十七　咲そめし時より後はうちもとけて　きや　ふのつゆ

同十八　あだなりにあつさ月のうの花のうの花のうの花のあ　きや　秋を待てこぬ

後五　えびづゝしは苔きゝ山のちゞきを　きや　吹つゝなへ水入日はちゞゝん

月八　天の川　そはこゝりにそゞゝぬ　きや　岩るにゝぎろ苔ぶとせぬ

月十七　ちゞゝ雲のきやゞゝ岩はふきまけ　ホ　枝ちげゝ　きや　日は光えぬ

千十一　あぶつゝるゝ海のゝゝ　ホ　人を　きや　ほがこゝの紫波ちゞゝぶがゝる

たのまやハそまをふやゝいふゝゝ。ゆゝにものふを岩きて　きや　といつる例も。ゆゝも

つよふ苔きを。ゝるををこと岩きてゝ　きや　といつる例と。岩紫よハかにもつよにあり。

ゆきぶやをゆきやゝいひ。ふへぶやを見へやゝいつるゝゝびも。そゝけきやハ詰ひまぶ

下へつきて。そゞぶえハ苔やの結びもり。

古十九　せぶゝゝ　苔きれば宝べふきづゝ　えきどあるぬむ。ひ苔ホ苔なのゝべき紫のみを　きや

月十一　ふゝもゝゝふゝゝもゝ　ホ　ゝん　ゆふてもたゝゝゝゝる下紫を

源氏　さゝゝひ　ちゝゝゝゝ海ちのちゝもにちゝなゝ　きや　ゝきゝゝる陸ゝゝゝ日ゝ雑

たの苔やハ苔ゝゝゝやたゝゝいきゝゝて。紫のゝゝきやハ。紫のゝゝりやゝ苔なのゝべきゝゝの

ちゝハ行ゝゝしやゝゝ。ゝのゝゝへゝをゝてふをゝゝ。苔ゝゝふゝゝへてゝゝゝべし。

古十三　風ふ苔ぶ後ゝゝ岩紫ゝ　きや　柏ふ行ゝゝゝゝてゝきぬべらゝゝ

後十二　うつゝふもゝ行ゝゝぬちゝハゆゝなゝ　きや　ゝそゝもゝゝるゝきゝゝとおりへだ

月十又　ゝゝゝる　苔や　ゝゝぞまがへつる月紫をゝふやいゝん　月ゝやいゝん

格云　わゝゝぢは意ゝ紫人乃海ゝゝゝ　きや　ゝやゝそのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれ

後拾十一　みゝゝゝふ紫ゝゝまだふ苔き浦ゝ　きや　海ふふ苔ふ紫ゝゝぬを

月十又　川ゝみやゝゝゝゝぬ乃海のゝ紫ぬゝゝゝゝるゝゝ　きや　ゝゝ人もゝゝ

金九　世中はゝゝ紫ゝにゝゝゝゝゝゝゝゝ　きや　ゝひをつゝごゝゝゝゝゝゝゝゝ

月七　新ゝゝゝぬ　ゝゝゝゝ月ゝ　きや　出ても人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

月　ゝが意ゝゝゝゝ野紫山乃奥ゝ　きや　ゝゝひいきをゝふ人ゝゝ

円

もみぢはふど袖さはる見が里や　きや

千十七　紅葉てよ秋のゝるべきみちや　きや

秋十　あきばみちゐぢきやうれ里や　きや

円十八　やそ〳〵ぐるむりにあまる新や　きや

秋勢一　花や里や　かゝ山のちれ紅ぐ〳〵　ゆ

菱万下　月が月をば見〳〵　枯木に月〳〵　きや

六脇　ちぐれ人のちるとそれ秋な　きや

右の里やハ里やとやゝ紅葉さそ。さて紅葉切〳〵やそ。ちぐめハやの結びよかりぐ。さて右の句ふまたるやのこゝろ〳〵まぐひて生ゆるがおかりまた。まだこゝろやのこゝろそ。下へつきて。必やの結びそそぐひをを。ちぐ。こゝをりてかつべし。芳案十に月〳〵したの大こゝ人さいしゐあまやや梅をゝ。ぐてこゝにつぐつる。こゝハいゝまちぐ。ちぐ。ハやのこゝろそ。切こゝろ。ふ。ありやの結びとりぐ。紅葉を明治麦秋左ちるハトなをさらゝ紅〳〵てりふもゝ〳〵しつ改そて入

ゝ。やそ切〳〵し。ちぐ〳〵ありやふかた。ちぐこゝ。ちぐ。ちぐ〳〵ふ。ちぐ〳〵せぎびまぐひちん

十七　ゐが〳〵ゐふ引て切〳〵せる布　きや　ト紅へ〳〵ゐ紅ぐ〳〵ゐ人もおき

円八　何ゐふゐゐあそれいくゝゐ宿　きや　さゝきん人のちるづともせぬ

秋十六　ちゐゐば紅のちゝゐ糸いゝな　きや　むさべた狩法ふゝゐゆゝん

千ふ　さをゝゝゐ法ゐゐゐゐ紅もいゝな　きや　ゆふぐハゐて紅ゐ〳〵かゝゝん

秋勢ふ　ちゐゐゐ紅ぐきハ月のゐふな　きや　さゝえゆく　まく紅ぐゝのぐゝん

右の里やゝ里。上ゐゐが。いゝ。何ゐぐいふ紅をおきて。下をこの結びゝゝぐ紅

ゐゐ中ゐふゐゐ。やゝをぐに久て又里バん紅やゝ〳〵

後十九　茶ま〳〵ゆふてぐりはちふな　きや　寒も風をおきゐ〳〵りた〳〵

後秋十二　紅も紅くちふゐゐゐゐゐふな　きや　ちぐぐふゝゝ平ハへふ〳〵

秋八　仲ゐ月ちぐ〳〵ゐゐといゐな　きや　ゐふゐふふ〳〵秋乃みや人

同十七　ひらげふをまぬあ〜ぶ〜さいうあ　きや　をーまれている日もいるようふ

たのまとやハ皆。上ゐ何ゐどらゆ何有て。やそ切るく。おう下ハ何やの結びり
かりうつぶ。さて什有まれやハゐふるうぞ。ぷりるまやハいうあるぞといやさん。

たゐうさ結まや。皆同じ辞の掛て。ことハおの〜 異ゐ。ぷ〜せざバまう

ひぬべ〜。ゑ切〜と切きさ〜ふよりて。ゆりをやをゐ〜〜ふけさ。

ふ〜のうりをゑ。よ〜わきまふべ〜。

○たのゆふゐ歌息のやうもうさぐのまやうり下に出さり

○やぞ

後九　たうゆ〜て同じあうゆ成ゐ〜成おりふがごとハおりゆ〜ん　やぞ

此ゐの弟り伝附家系ゐハやたと〜あり
中巻系ゐハ後撰と同〜〜やぞ〜有

拾三　年にありて一歌妹うり一のゆふ表星も系ふまうりて呂ふ〜ん　やぞ

拾玲記　垂中仮たゐ和よりのしみさぐきけうりうゆ〜ふぎ〜ん　やぞ

同　宮元まばよりもきけ門もさ〜なぐ〜有べきものくおりひぎん　やぞ

兼盛系　ほゐあうりおいゐる新を元るゐあづ乃ゆ考もゐふきうゆ〜ん　やぞ

必仏系　友ぎぬ乃有〜ゆぐ〜もゐ元社義を せゐと〜孫なバまうりん　やぞ

同　よけ中ゆけう〜〜ういをぐかく時もゆ〜くゐん　やぞ　ゐふまどぐ〜そ

此やぞ〜ふ〜ば。ゐ察たゐあぐふとそ。又後拾きよりこゐうの系ゐ
ともべ〜〜そ〜ぐ。きく〜ゆ〜を何〜ゐ辞あり。

○やゆひてうゆ〜ん〜ん〜ん　結

後十九　りみぢ紫をゆさ〜たひゐて。ちじつ結〜ゆふ　や　ゆ〜んうゆ〜ん

此例のゐゐゐ千云のまもう〜ん　ゆふの結ふあまゐ出せり

○やう〜ん

千とせの春　公ごとてと本紫がとけうりとあつこわとぞ　やらん　おくづとも世ぬ。

文ま　為徳　五のみちう　ねごとふうけてゆくおづのくぐをぐ　やらん　ねのつとるる

をべてやらんしらすいやしき辞まで。ふうとふとふくハてしぞ。今の

世の人くをまたに何しにふるをもんなし。たのみるあのあのあのもむぎにを

さ和しと知ぞるまうり。

ちぐ先よるとまでのいくハみを歌ひ乃やあり

○歌息のや　なげきと。後世ハぐうれひうるむすびのいめとぐ

ふわるびうれきふとありるさふもたハとるふもわ

うてまでてんよ徐く慮ぞう弓ぐふぞ息を徐くうしさて武やを。

その歌息の声ある方ふ今かりに歌息のやくらひてるをとかてり。

古土　ひのかどもけさうぐ入江乃ちうぐ波のおしぐ　や　人をかくうひんくハ

日十九　思へぐとおりうどくのくいふるとハいを　や　思りぐたりふりひを

後丈　よの中はいふふ風の吉ぐきくふとをつハ物やかをたを

初六　をくむとかうれ　や　ふとうれ仏たるれぐをぐふりもえやハぐむる

後拾十六　孫ぬるはの孫ぬ仏ぬいうくをぬとだあわ大海のいをじ　や　よふ

金八　吉うくうう師の海乃ぐ波をかきぐ　や　神のぬとをそとれ

詩二　うくみぐと　や　うきよ波ひのいろひくくをそふ風乃ぐくとろひるをバ

日三　きうぐくぐ孫をまくぬをほうぐぬ中くるり　や　よバ乃一詩

日八　ひのつとるわが身ぬまて　や　海みぐつひふハ恋べの意くおりへぐ

日十　人をなやうくみつべ　や　ぬるるひとやくくふもうふをきうのバ

古九　かひが拍を孫うくひうを人ふもがと　や　あくつてやらん

万五　いのゐらびやうふとぐも　や　みやこまでおろりきをてらむらつるもの

金七　ほうりまむとのゐをゝ　けうりかへをあをとゞかね　や　人をゝゝみど

狭衣　あゝうもう海士をとゞかね　や　ゝとつ海の底乃如藻もかづきゝゝるべく

後十五　ゝゝ川のゐるれのいとゝえまゐ　ゐれどみゞりに人をよせど和を　や

件の分度のやゝる歎息けやうて。こゝ除きてもゝを八月ゝゝ

ゐれた。ゐゐ　ゐてその時涙くゝるし。或々よ或ハみなどふ無ひ。

ゐゐ　ゐゐゝふゝゝふも無ゐ。ゐのかゝ　ゐ　ゐ　ゐ

同十六　おのがはゝ　ゆじま　ゆ　ゆ　ゆ

後古今に
れたりて

夢うらぞうびてハおりふたまさうにうゑ人あきや又やさもるゝ
こゝろ〳〵のあきやハ何をとゝ形ふうふ歌島のやを作るにてあきあとあを作るう
日じゝ何をやあるをえゆゝ七の色古風紙ふ出きと

新勅撰
長承極

むらり孫ちようむにゐわる月えきバ時〳〵とあきや衣〳〵節

拾川
後うそ

時〳〵とあきや みるぶち心を紙ゆきバたのもとかのもにかこづ明るり
ちまつハ時〳〵とうをとし事にいふうるゝふ。歌島のやを作るゝ。播川後うその所
ハやりゝるくて個べうゝしきゞ。いうれバうゝ〳〵作うきん。いとん作ゞこれを
まゝ本素ハ時もうをとやとゝ。これもうゝ〳〵○播川うそにうゝうこれんをころ
を紙ゝるとやゝハなくを伝ひきん。もハこその結びようれといて下へやを作う。
うゝのうた宋ぞ。

をべてうきやあきやうどいてうきやハ。結ひのやうゝをとうゝ
て。上ふうゝうゝうゝ。又歌島のやうゝもたのおとゝ結ゝうりゝと
まぎきやうゝ。おのゝ〳〵ゝきうれきとをよゝ味をてうれきふべきゝ。

○そや 三のまもぞの結ゝ〳〵おきり
○かや 四の色かの結ふ出せる

こきまでの作〳〵ハみる歌島のやうりいづきもと下れ結びきやふ
くうるとうゝ

●雑のや

○一つのや

そがうゝや 伝えの里 ちふ原や をゝわれ山 かづゝきや うる写れ山
ちゝゝもるや 峡きて山 さゝなゝや あゞの浦

こわゝのゝうぶひそ地名をまよいふ所ふかにおくやうそ。のといふ歌ゝうゝ。こきえ
上と下うの地名別和ゝるを三つうゝべいふハあゝゝび。上ゝうゝハ戻くして下ゝうゝ

○そのをや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後拾一　春霞たつ山川のいはまをくぐるあさきなるとは

はやはりく鶯ひのやうて。夏衣をしたがおそきれと鶯ぶぐりまちかねるやうに。いつしらとさるや風をまつとつふとさし。春霞のあさきなるとのこゝろをのこさしかふ下をやの始びなきといひそとしあつり紅きとも山やハいと鶯くゆして。うちまりせてハ鶯ひなきぐめくるるかふ。ちぐくこゝに出せり。

○袖二つの間ふたさむや

風十七　左兵衛佐規

なふとかく花や紅葉をえる袖ふ春と秋とハいく色ぐりしつ

はるかに紅葉に花やの紅葉とよあるて。撰集ふ玄第十九ふ光俊朝臣の歌。又風雅八代後嵯峨院製ふぐいるのこゝろて。外ふハそしも。撰集の外ふハ新続古今小倉百ふ。

新しぶふ花ふべき歌のぐやさハ花やみぐとふんとさんふ。河ふハ大後り。

詩や詩ふぐとさうしふ。又花ふ。童蒙抄ふ人ふとさハ月や元ふぐを

こそよそれらしふぐいるふ。をべて山やさ今の世ふハ花ぬくよむるふれ。ふるき歌

よをきくそしぐいやしげふる歌。○柵冊ふ花ふる人さ花や紅葉やくいさぐ日

を日ぐ山をバ春ぞちりる。保氏西後ぐふと花やさふやくふといりこれハ花

よてふよといふ同ぐくして歌ふのやりふ下の撰うもいり。後のいひざりも哭ふ

ぐびまぐべうしぐ又上ふ出せるぐきやうるのふぐとさと。山花や紅葉ふどの

やと同ぐ格とんけうとえぐてなる。

○ぐや

あをハかくいるる石海しと歌ふ歌。

左三　さ月こばおきとゆりふん部ふまぐ紅ぐどの歌をきうぐや

後三　いるるよ月と花と紅日ぐくハあるまるん人ふとえんせぐや

後拾一　ちるいるん人るえせぐや　ゆの雨ふ雖後るるの春乃きをき

日十一　春ぐれ乃雨ゆふふもるぐ紅ふのるるぐや　おりふるるを

日十八　日ぐ袖を秋の第紫るべ　いづとう春ふおきハまるると

金七　よるるふ雨ちる春ふちをぐまるるえせぐや　人るよハの春紅を

右のか歌せぐやかるさぐやるぐ歌ふ。

又

えるせぐや　ふ　きうぐや　ふ　いとぐや　ふ　ちそぐや　ふ　ゆうぐや　ふ

右のごくとふを歌をもいるるまるる

ゑせあぢや　やさあぢや　いろとあぢや

かくのごとくあを上ともおりあるとも。但し下に使るあと。上ちおくあとは同じ
くゝびそのゝゑぐひハあのまもあの結ゝくりくいり

古俗ゝ雑のやうるぺいづとも切ゝあ下の結びまハかゝりくゝび

加

○をべてかをやゝ似うる絆まて。やと通りいひてよ近取もおゝ。あゝ
美祭あハやゝいつあべき所をかといてうるすおゝ。さんどみくるゝびやといつあべ
き所ゝ。ぶかゝいつあべき所ゝ。だゝいふうるまゝ多ゝ。みぐりにそつひがゝ。

古十　みゝゝものゝ似うる法をうおのきあゝえつゝん

新勅撰万八　所をか川ゝゆきゝたむ新景乃秋萩をりあゆるあゝりちりうるあん

同　ぬあまあゝ新本所ゝの小萩いてづゝふゝうゝ人あゝふさきうちゝん

源氏　ゆう　かりうゝんあゝうゝ新わどややよいふまぐゝんあ人乃きゝうあやまん

古十　おゝ山乃菱新をあのぎふゝう者乃きぬゝういゝん所ゝあのゝふぐきに

あ云　いとがゝうゝさゝ新川ををゆきバさゝようゝあをゆゝ所みをなゝし

新二　かゝゝげあゝ神野をあのゝ新ゝして今うゝ咲ゝん所ふあきの花

新勅十二　いつづゝにいゝゝ年はのこゝえゆゝんゝるの花うおきゝ所未新玄山

源氏　ト花をへゝぞゝうゝべうゝ仏ゝふ高新ちぎゝううおきゝ所新兵の笠

あ生　右のあなのかゝ後のゝうぐふを立てやゝあひて。結びもやの枝ゝ月ド

又

雅八　袖れりやとゝうゝ月日音ちゝぬまふゝゝあもゝゝふそてゆゝくうきく所

秋五　いつのまふ紅葉しゆん山げらゝきのふ　ろ　をのゝ
同十七　世をををしくゝろゝと　ろ　きく　おく山ハ初しひこぞ入だかりきゝ
　　右の三首の加そ。結びハやの格より同じくそ。やゝ長ひ。かりどをゆんゝ譯して
　　まゝ
拾十　命をバあふかふと　ろ　きゝしかどわるやたゝ光ゝにあゝぬ人ふせん
後拾十　行ふゝふ　ろ　あゝゝゝ

陰九月

詩夜

詩又

月

月云

月十七

月十又

月

月八 いせ物語

月廿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後拾三　きうでやる花のかゝ山乃部ーム有ーひゝーけたなびーゝ[ろ]。

金八　ひゝゝびゝゝゝ

古十三　君やこゝ　あやゆきあん　あとゝむ　美　う　う　祓て　う　さめて　う

新勅八　おり人〳〵で美　う　うつ　う　ゝ花ゝゝて　ゝる　う　なき　う　ふる　ぎゝん　を

ひとゝハ二つづ　二つきゝわり

○かゝ　の　ゝ　ゝ　の　か

後拾八　ゝゝゝ　ひとゝなゝ　ゝば　あゝ　で　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ぎ　か　で　を　ゝ　ゝ　げ　ゝ　う　人　ゝ　ゝ　ぎ　ゝ　海

ひかゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

後二　[illegible]　山[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

日在　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

チ三　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

日十　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

○かのことのかな

チ三　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]八　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]十　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

日十八　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

世[illegible]ハ別[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

夢ほと。やとやむしよの例のごと[illegible]

○かなのことのかな

古一　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

日二　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

日十三　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

日十六　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

日十七　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

日二　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

同十六　[illegible]

同十六　うちつきふさびしうとを　ウ　りみだ染もゆ〜をき宿ハ[illegible]

同十七　ぬきみだる人こそ有しきりぎしのまねくとちる　ウ　独のせゞさに

金三　行人をまつ〜　ウ　生べの[illegible]

紀四　[illegible]ひう称さこそハ春[illegible]　ウ　月の独ぢせゞたゝ

○かつら　[illegible]

とをハを[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

古二　今を　うを　咲ちるゆうんゆちぢゑ[illegible]ふ[illegible]の[illegible]乃山[illegible]の花

拾十三五十一　行〜川乃山[illegible]尾のちぐりまの[illegible]〜花と[illegible]　うを　[illegible]

[illegible]

古二　[illegible]がすゝつろ[illegible]ふ[illegible]つるハたゞぐく山の花ゆうを　うを

同九　[illegible]のそ〜ゆりさけ[illegible]ハ英日ゆる[illegible]笠の山う出〜月　うを

同十三　むう〜げ[illegible]ぬべ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ん　うを

拾十二　[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

古七　[illegible]

同二十　嘉八夜花をどりれき　拙作　乃こ山乃ゐ花　秋のきみ　うと

山ゐと　[illegible]

のこりつり　[illegible]

○発かと

古九　山桜　[illegible]　の山乃　[illegible]　ふ人の　[illegible]　発うと

万葉　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　発うと

山かす　万葉十四の　[illegible]　二つ三つ　[illegible]　[illegible]

○かふ

古七　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　くふ

同十三　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　くふ

拾二　山ざくらに　[illegible]　人を　[illegible]　郎　[illegible]　[illegible]　[illegible]　うふ

古二十　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　うふ

山ゐふの　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

○かや

玉十　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

小大君　[illegible]　なのりせで　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　うや　[illegible]

○[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

拾七　[illegible]　うや

伊勢　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　うや

友宗紫

○むの部四

あふとやとつて結ぶ此外多数十三結ちとすれども、

○何等結下ふおくかの結び　次の何の結り出せり

□□□□

○ゲあれとそのがゲと　右の巻かあれば結より出せる

□□□□

○ちそのあびのちうきか　五の巻ちそのあに出せる

□□□

○ちりぐきりかば　三の巻ぐの結ふ出せる

□□

○ちかど　あれ巻とのあふ出せり

何

○なふ　あど　あぞ　あれ　あゲ　いふ　いぐ　いぞ　いづ　いづ

○何の結ふ出せる。右の結びの格同じき有ふ一つふ合せて

何の結とも。たりく此まに何等くらの中そ。伴の結ぐとまたべ　ゆとし後の頭ふ何くと挙

くうる巻し。さて其の結びたいづとも同じく。中の巻の巻くとは結ふて。一の巻り

出せる三物徒ふ結ぬし。その徒ふよ。右の結方の同。いづとにまれゆとつぼくを

出せる。そもふ准へく此結の同ある結くそ。みな同格乃結びと知べし。

○何の下ふおくかかそ

何等の結をかきて。その下の結びくの間よ。

□□□□

しゝかゝ人のうゝゝんゝゝゝ

きのまんとゆくにようしをうちまぜてかく所あるやとかくハ皆ゑがてゝじみなる
ちぬゝでの何るハ誤ひけ誤り多し。なるべかゝいふべきをなるべやとひいかるる
ゆゑおろとかくべきをいかるゝゆゑおやとひるゝとふゝといふべきをるれゝや
とゆゝにふ数を記がてゝ。古人の文ハひけ誤りなるすべきを。今の是ハ文よ
くかゝゝとゑ人もまきくひけ様を親へ知るハ。とべて何名の下よハやゝい
ふゝゝう。是かゝりゝんなべし。後撰一名ゐふいふぞ。あやゝありあゝんゝゝこきハいふ
ぞうて切ゝ何るれバ乃のや姑なし。後たゝりてたき
ゝゝゝんなゝ人のまゝゝゝやなゝひ月のさゝふゝゝんこきハるゝゝゝいへきハゝゝれのゝ
のひゝ下へ及ゝゝ。源氏ゝゝゝ様ゝきゝゝれてのゝどゝきゝゝのゝゝ人をいふゝゝのぶやゝこれ
きいゝゝゝて切ゝゝゝやゝゝゝ姑ゝゝ。ゝゝてまゝゝゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝに記きてハ虎の衣いくかゝゝゝ神作の浦の後やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
但しゝゝどやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

金水　いの　たゝり雅もうれしとみ見うさ山二紫は春乃ちよはゝ〜はを

同八　ゆふとてふ名を為り雅ゆ春もど　いづ〜ハちく〜ふくるふ・はさ来

同八　いく　うり法しと人をみ名世のく〜老〜春〜かく〜ん

同四　たま　をくもまれちはゝ山乃女子ゆ秋と雅ゆる人ぞ行くし

同　大くゝは秋の稲ゞ老はゝ春きくバまゝく　たゞ　神ふ行り四の月

同六　月ぞもむ　たま　ゝハちく〜にまのふや吹上のふ春ゆとりなくも

同十　いづく　ふゝことひゝ宿をかりくゝも和もゆふ春は雅の行しふ

同十六　たゝ〜て天〜ハ春ゞり法ゝ春ぞゝも　春ゞく　春〜川の花は下法

同十八　いゝふ　〜そゆまでよふハあり四のつきせぬ酒をいゝふくゝも

同二十　あゝふきく〜春ゞゝと　いつ　ゝいきは松ま〜〜ん酒をんばく〜に

万九　酒のうへ乃は初の山ゆ秋はべゝきき深るも　たま　よぶこゝる

○金集三いゝ〜ハのゝふゝのちゝ法ゝ月はゝひゝて言葉乃ゝ月はゝゝん。これハ雅俗をやゞてなふゝ辞ゝひゝゝ〜ゝ一の稿〜

後十三　○切ゝ〜何　酒のゝゞ老に有

後十三　花りふてふちく法を　いゝふ　春ゝ〜ゝ。後ゝに酒と思ゞゞを〜ゞ那

後十八　いきゝ〜ゝゝゝ春ゞゝこの。　いゝふ　春ゝ〜ゝ。ゝゝゝ春ゞゝ。ゝゝゝ春ゞゝ。

源氏作何　いでや　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ

文下に加かゝを法て切ゝゝゝも行り

後十二　よゝつゝ法人のゝゝゝ法まゝ〜ゝねバ　ゝゝふ　ゝ　ゝけ友をねべき酒を

後十八　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ

○右の和ふいづ〜〜ひて切ゝ〜おゝ。ゝゝハトゝゝいづ〜の條〜別ふ

みせると。又や何と上よやゝゞゝハ。の法やの終るおせり。

○伊勢物語

後十八　昔、をとこ、いふや、いふ風の音に、夢おもひまはすのやうにて、

教八　よみあらはすくいひくのたそくハいふやいふ、あらんとそらん

文本　此歌をも後をも、いふいふ、せんりえんりぶりもむまぶれつ

統笠　ちまちまにてにまよひそらりまく

後十八　あひこぐ行かをふゆひさしくて、たきを、たきとろ、ゆハ空えん

拾二十　おりひしに人も有りて、云中城、いつを、いつ、そそるきあらん

千三　とが屋どの、ゆきちらだれふ、ゆを、たが、里よりと、たきなぐむらん

同又　たが、ちるふ、いふ、うてばらかりてちもちびかる夜ぶり、ゆ、むる

拾八　いつ、ゆゆき、いつ、ゆふべきにも、ゆきバ後のよりて、人のそぐらん

同十又　いふ、ゆ、いふ、ゆ、ゆをり、ゆりへだちぞ、ゆ、ゆをおりそぐべき

後拾五　ゆふ、ゆをを、いふ、ゆふとゆるれどとたりとかるゆ秋乃ゆぐを

百四　ゆ、ゆ、ゆ人をゆひえて、いら、ゆ、ん、いづを、の月ふゆよをふえん

又ゆ對へてゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ

後二十　ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、いづ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、いづを、のゆ、ゆ、ゆ、ゆ、

○をとゝの枯　此枯はびよかりつゝび

古二　ぬきつゝぞちひてをりつる事ぞ用ふ言ハ　いく　うとつゝじとゝへぞ

月十三　うぞ如ぬやゝ乃うつくはさごうる美ふ　いく　をまさゝびりふと

月十八　いく　よゝをたゝゝび新をなぞ恋かゝりつゝとふ思ひみぞゝ

辰一　まれふる人ゝ　れ乃まぼは美のみぬとうるも　ちふ　をひおかりふと

月云　いつ　ぞを月又ぬ秋をなれりのをゆてとうひのをづしき武

枯二　いづく　ふをちきハをゝめぞ氣戸のやまを拾みたまふんせまゝ

辰枯四　ちびゝさふ面ど沈を出てなぐしまハ　いづく　を同じ秋乃夕言

月八　たま　がよをを上げ言ををゝぬよの中にまれあどゝうぞうんとをゝん

月文　月又まぼば　たま　をんぞなぐさまる横枯山乃ぬりやをゝねど

月　いつ　よりをゝりなれよの月をゝバ又る人さへふへゝぐゝ花う部

新古　いつ　をきゝ祖ゝや人乃おりゝふんちぬ夕ぞとれまれ　ぬの新

月　をゝ記こゝ　たゞ　いつちりをまぞをゝでまりとせゝはの言を枯言

件のゝうぞものゝぐゝをとゝ言ゝうきハそのトれ枯びよハゝりゝび

○をゝぞものをハ別あり

枯九　たりゝ新枯りゝ花ゝよゝゝ　いづき　ゝをとゝゝ

河七　わがちひをゝ物ゝみりまるゝ如ゝゝ　いりふ　まれぞをとりゝりゝぞおき

新七　ゝう花てをゝりゝへゝゝ川お旅衣　いく　へりゝ言る山孫ありりゝを

たのぬゝりゝをゝぞをゝゝ言ゝをに同ゝ

○をゝゝ言ゝをゝをりゝぞおき枯

古十　いま　いく　りまゝゝなりまバ言るを祖ゝをゝぞをゝてありゝべゝりゝと

歌十七　たくしの乃まつかぜ　いつ　そくべしとそしぬるそうる

同十七　とがたえそうしたうき人をばおきあがり　ちふ　のつゝなきそうやれらん

詞一　ゆびとのさきはゆくて乃ちるゆうて　たが　里へとゝ　梅の花ぞそうる

凡十数考　人しきびとふちろうへてと　ちふ　のうひうゝ　ぬぬべき所

（ゆうゝいづゝもとといそぎれた。とゝふゝうゝ。この歌ゝ　ゆうゝ
を入てんはべゝ　○凡雅十二為恵判りしかるの光ばつに思ひよばちふ
を余はゝぐさえんぞちき。こゝはきゝゝいふちや　ゆうゝ

○一つの伺　此格はびうかゝうゝ

古古　みちはくの恵ぶりらぞうり　たま　ゆちふみぐとんとふふ恵ちうくに

同　はの恵ちふ　難歌　ちふ　をおりんぐ山ゝろれそうふをえんとをのこうをや

同二十　みちのくハ　いづく　を六歌　いづこを　行まぐ恋が女は俗こぐ船乃つうで　かゝゝを

五八　いづく　ふを。なきをゝにきん部ゝ五月花へ乃里に乃ふのゝぞちく

同十七　梅花　いつ　ををゝじゝいゝをゝじゝはきはさうとハ情き物ちうと

此格ハそのさゝて五地ゝ対へて。ゝをとなゝぬ他の物を何といふゝ。古々十四の歌ハ。ゝふ人
ゝ対へゝ。ゝ他の人をゝゝをゝゝいゝ。ゝをおきて他の人ちふみぐとんゝゝふふを
らなくにゝ。ゝなふれ思ふぞハ。ゝそれに来ゝんゝをのゝこをを思へ。ゝ他のゝハ思をぐゝ。
いづくハ行まぐハ。他の所をあまぐとうり。いづくゝハなきゝとゝゝにきんゝ。他の所ハ
なきもちふちんゝいつををゝじゝとゝ思りゆぐちうと
○此格ゝゝまぐゝゝうぐゝいつゝハ格あゆゝ行り。別ふきれゝきがの俗ゝ知をり

古の俗ゝハ伺の歌の詞ゝ所のゝをべてにちうゝ格ぞとゝ。一つの詞ぞふ

おのゝゝきゝゝづかをれゝ格ぞうは。此下に知てをせり。

○ちふ

●なふ

古十又 ひひろ〳〵ばこえてそまさられみるせ川 [なふ] ふはめて ふひそめきん

屐九 わふこと ふかく〳〵ふぞ〳〵はちりなぐ〳〵ゐはをぞりり [なふ] ふよろきん

〳〵わ〳〵ハふを ふ〳〵り又 ふ〳〵たと〳〵んをぞひのふ ふ〳〵〳〵ハ別し

○なふせんふ

古十四 ひふまでふかとえもふ [なふ] せんふえてもんのなぐさ ふ〳〵に

屐十六 [なふ] せんふへ〳〵のみる ふをおりひきんおきろゐ藻をかづく〳〵はして

〳〵〳〵ハせんわ〳〵ひふりを ふ〳〵り。そ ひふりふ〳〵ハ切と。屐撰ふ〳〵ハ切と。ひ

ぶゐいさ〳〵ふ〳〵し。

○なふせん

撰十一 ふひふきん屐七 [なふ] せんふ屐七 ふふ〳〵る日ふ ふをふ人をえきく〳〵ひ

〳〵ハせん〳〵ひて ふ〳〵ひ

○なふ〳〵ふ

新勅十一 春志賀方 きみぞ川せぎりにむきぶふの沐乃ひのきと [なふ] 〳〵に ふひそめきん

六ろ十四 わふとだ ふ ふ春ふるり ふをひふ坂の実沐 [なふ] 〳〵ふいそぎふんきん

○なふふ〳〵

志作 [なふ] 〳〵 ふは屐撰七 ふ〳〵ふ〳〵ふ花りてをやをふ〳〵ふ

風二 白河院 ふふ〳〵たづよふハふでちふ [なふ] 〳〵ふ〳〵ふ

○なふと

新後二 ふ ふり [なふ] 〳〵かく〳〵ひぐ〳〵ふ乃ふ〳〵〳〵ふ�〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ

後十一　夢ちぢとそなたきあはさるりわたる　なふ　そ　人はつふとそつん

摂州　るそ　そのあ〜やはりよものとりとくきるふ　なふ　そ　年のくまをいそぐぞ

○なふそ

新古　うれ人乃月を　なふ　その夕ゆうぐそとおりむなぐもうちはげそつ

けそハ光づし。狂三の光ぞの紅いくその様りくさ〜くいつり

○なふ紫ふハなふをとりくしいつるこしまり。又なふとれでなわりくわ〜去を八後ふハそ〜ぬ録

○一つの指

金ふ　も波乃まくらぞ打敷を　なふ　なふ〜ぞ　浦きせどとるゆう　恋られ代りな

後後九　公宴ニ　恋が代の敷そ〜〜べむ　なふ　なり〜ど〜ふ　なれ波のまゆ砂なりた

大れ　舞　なふ　ぞかり〜ゆく〜恋ひつ〜ぞよあつふ波えを和ふとろるばりし

摂州　るそ　あひえてのひつ〜〜ふの恋〜〜ぞまばちち〜月日も　なふ　なふ〜ぬ孔

○なふそた　三の光ぞの紅ふ出せり

○なふなまや　けぞ光やの紅ふ出きそ

○なふ〜かや　けぞ光かの紅ふおきそ

○なふなる〜〜ぞ〜ひる指　二の光変指紅ふ〜出せそ

たのかたくなるなる〜

●など

○下にかりどをあく〜倒。あどうあどうそと佐ぢきそ部のくし。下に河をあ

ぶ〜〜おりぐ倒をそんぞ。後撰七あどさ〜に紅ちとりん　ぞ〜けかハなどふたづゆ〜詠

みひ〜〜〜上ひ〜いてげぞ〜

○などそ

後拾十 [あゞ]てかくまぎらかしんかくだうのどうふを巻る月も乃ち世ふ

千三 [あゞ]てうくおりひそめきん部ゝ巻はみやうの法乃ちろうは

いせ物 [あゞ]てかゝ乃ゆゞかくこゝふるりにきんありうさぎとむらびゝあを

と思うてを伝くり

又てかそゝいてゝハ

後拾二 みちよへゝなりけゝ物を[あゞ]てくは[illegible]

○あゞゝや 仏まもやの紙ふ出せり

右のかきゝ形ゝてゝなゝ

● あゞ

○下ふかゞゝをかゝ例あゝ

○[illegible]あゞそを

古土 かゞゝを尖ゝ乃ゝぬ思ひの[あゞ]を[illegible]

今七 [あゞ]を[illegible]かゝゝこひぢふたちて乃やゝ光茅あまり出くもみ月あゝゝん

新後撰一 みち人乃京絵ゝゝゝ花ぢかりあゝ[illegible]

ゆゞゝゝもハ光づし

○あゞや [illegible]

此まもやの紙ゝ出せを

○なゞそゝ [illegible]

あのまもとの紙ふ出せり

右乃かゝゝあゝゝ形ゝ

● きれ [illegible]

○玉の巻 四

○一つの橋

古十七　みちすがらのこのぶりぢぞと　たま　ゆゑふみだうとんと思ふまれあるべき

後四　半月人を　たま　あるべきに郭公かりひのおにならばうかるん

拾十一　このぶ子を　たま　ゆゑふあるべぬおもれど今ハなふうはえをりへどてん

古四　たが　秋ゝ一つゝぬりのゆゑ女房なるべきなるべきまぐにうつろふ

同十二　あひにあるべば　たう　名をたゝ一ゝ世中ものつゆおきあるいひハなをうを

後十二　ちりひてを拾おりふえをまるふなる　たが　ゝめをゝに金あるゝゝみで

万七　ゆさゝをちきやをき常　たが　ゝあふゝ身るかをしとわが思をあるゝに

同　みるぞをにあづくあるゝむ　たが　ゆゑふ公つらゝてをがおとをあるゝ

同十一　たゝてる雅彼菱笠おきゆゝ後を　たが　きん笠あるゝあるゝ

同十二　里人をかゝりたぐかひよゝ思やゝ思てもあるん　たが　あるゝあや

前歌ハ拾遺ハ拾遺ハ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ

どのあゝ同ゝゝゝ

○孫ごふさのいろふして　後代よりのぞみふそをとつまゝ

後十　おとりのゝ母ふさくゝ　いろふしてれをじふり人をくゝへん

同十三　いろふしてかくゝ母ふてふさくゝ　ぞてあしでゑふかくゝん

同十四　いろふしてあくゝうんはゝくぎすながきはしたなきばうひゆゝ

　　狩はくゝるハいろでゝいるふゑゝトのいそのゑゝ出せり

○いろふきや　はまもやの絵ゑやの絵ゑより出さる

　　右乃ふあくゝるくゝふし

●いろぐ

○下にかゝりぐ浅れくゝ伊形し

○いろぐを

拾十九　ゝ結まるは　いろぐ　そせゝ

拾十二　りのかりふゝいをぬぐりハ無ぶゝと　いろぐ　をまぐき神結ぶゝを

　　かくのめくゝ下にをを伊てをいろり

　　伊ふゝことるるゝ

●いろで

○下にかをふくゝる。いろでゝいろでかをくゝできてゝいるのゝまで何ゝへぐゝおゝ御ハ

○孫ごふさのいろで　後ふふゝをゝいろふゝ

後十五　いろで　ゝ結ぎりもせぬゝもゝとがふあまてゝる宮ふゝゝてゝるゝへゝ

同十九 いらで あれかさぎりふり分をきて袖ふそりんとぞやふ

拾六 さくらりはらば いらで みやこへ告やらんろふ白川乃冥々ちらぬゆく

同十一 恋しいへぞ同じ名ふこそやふらゝえ いらで 赤地を人よまろうせん

同十三 美をしぶふ いらで かくこふふえてしがあのたそでぬるよのあぐさあふせん

同十七 いらで あやはのじろはをふをふちらゝんあゝよりてゝ赤波とハぬし

新勅七 公忠 みる人の いらで とわりふよりぐよりよのたゝしとゝをいのるろふ武

又かを添てつるまわり

拾十一 いらで ゝとありふこゝろはあるときハあぶあくさへぞうれゝうりろる

又を添てるハ

末木 いせ いらで をとゝ思ふんゝそはりかゝはは井よりを拾ぞ依さまゝうれる

又二つまゝゝるハ

拾十六 いらで いらで ちゝるんをなぐさめて後乃無までは物をあるうぐ

たゝのかゝとゝるとゝゝ

● いづま

○いづゝいづといづちいづゝさぐゝもいふ

○いづまゝゝわとゝぞむる格 二はまを変格の移ふ出せり

たゝ乃かゝとゝるふとゝゝ

● いづゝ

○さべく いづくハ皆切て格子下へつづく例をあ― 法ぎきてるやくかなるも三あ切しるり

古十七 ゐゝぐ者ぢ小ぐそや。いづくに こよろぎの波乃流るをおきふ出ふ乃るを

後九 ゐるぢ中に元る。いづくに。まちをぐいつをの元ぢ長しいをはし

いせ物語 いゐ―へ乃ちひを。いづくに ぢろ―ぢこきるかゝるを嵯ふ乃るる和

古十八 よの中ろ―いづくに 彩のをてゐ―ぢまれるやいをんあるるやいをん

新十又 いゐづくはてゐさねよひもをりるを いづくに ホのうふ元しゐぎろふ

拾遺 半の色ろ―。いづくに とれをの和やこれ。人るのめ野るゐふをそ有れ

又ア―をを添てもいろり

古十九 むつごをもまぐつきくふ的ぬをを いづくに 和つ色―てふのハ

後十 とをかくをいふ元ぢ紫の元しぬるゐ いづくに 春のかゝ中ぐろ―ろハ

金八 いふをてふ元を添ゐ―きをゆをど いづくに をに元ろ和の里

右の外あと和るるり和―

●いつ

○いつ―― かこをハいつ―ふ―ふ―をを和ゐて。―ハやをめ詞あ

をバりとハをゐ―。ぬをぐを後安をハ。いつ―ろといへど別ホ一つの元ぢぐ―ゐれ

後一 和ををぬきわるゐもつをびをりゐ和 いつ―ろ さろ―をやをぢろゐん

拾遺十九 いつ―ろ を法くまぢまろろ―せをんつをき人乃をべの教ゑん

古四 ろふをろは今ろん事ぢきの元をぞ いつ―ろ とのをまち法ゐべき

後八 いつ―ろ と山の法ろ―を毛ぐぢく事ぢころふ元をまろ―ろん

同九　いつしろ。わづまれ山ふかくハうてしかるべきかたもなく神の邪

和十二　いつしろ。とうまつまたたえをそうりうえてそうれうりう純

同二十　いつしろ。と考るとおもひ〳〵考をぞ侍のと光るぞりやつをつる

件のうぢとのいつしろハ。いりうく〳〵と侍うとし

まく

和九　いつしろ。とうきてえうれバさゐゑ多ゆ和ゐる　ゐとふ同とのおきうみ

六帖　いつしろ　□　をりやをしつ明日多川　こうてあくたまとうづかん

こまうハ侍ことハうしぞるが玉〳〵　竹のやき方　あれ侍ことし　桜さの方ハいつしろと

まちてあきてえうれバ。六帖のハ。四の白の上へうつてん侍べ。いつしろと侍うて

と侍ことうり

まく

金一　いつしろ。と明り方ハ侍かを考る天の戸よりや　考ハしろうん

同　いつしろ。と考侍ものハ　和を和のをう侍　辰たりりを

千十　たりゆより　いつしろ　ゆうたりやを弐ゐうとぞ　恵の考るべうり考る

同十三　よ侍にてそりどきし人ゐ　いつしろ。と　神乃考づく　弐をうるべきかれ

新十八　桜さ出しるが侍ゐ考侍こきの下り　いつしろ　ろうん名て侍　情乃逢

西四　紫式部　赤染衛門　集　この〳〵先侍定きりわうう　いつしろ。と秋のりう　和ゐ考をゆふりうと

いつしろ。とかをゆる元のあ〳〵きゆ考ゆ人きいうぐろうん

右のうたのいつしろハ。さやうりのまにうといふこと

右のかたとうること和〳〵

●いろく

□

○いろ〳〵いく〳〵ぐ〳〵　いくそバ〳〵　古今物　いうぐうりをぐいゆ

○考べていくとしつゆ辞。和ゆの家ハみぐりにいく〳〵ふゆ　いく歩代あぐ〳〵

いひて。ゝで きこえ久〳〵きこえ〳〵ん はゞ〳〵ん。いく八 鈍ひの辞
をもバ。で〳〵 〳〵 〳〵 代 ぞ〳〵 のゝいひて八。〳〵 〳〵 〳〵 代ぞと〳〵 代の 歌を問 こゝぞし。
〳〵 〳〵 代 と と いへで。も まて久〳〵きこえふるゝし。と とへバ〳〵 〳〵 〳〵 代 あゝへ 業の
花といひて八。〳〵 〳〵 の 辞 ゝあるど。〳〵 〳〵 〳〵 名 も あゝへ しいへだ とゝろ しきし。とべ
てけきぢ 名 をよ〳〵 ゝ 見 ま す へ て は ゝ べ き 辞 あり。千載三 まちゝゝ ゆる 者 き ゝ 孝
ゝ 業 古 和 泉 或 ア 浦 ま で〳〵 と ゆ が め ゝ〳〵 せ で 年 の 日 も 去 ぬ い く ゝ ゆ ま で と ゝ ゆ ゝ ゝ こ れ ゝ ゝ 長 い く
とのゝいひて。多くの月 数 のすゝとせるぞいるぞや 少よかゝ び。又 風 雅 ナモ〳〵 〳〵 えも ゝ かゝ ゝ び と
てこと〳〵 や〳〵で 五十 は 度 のい く わ ど の よ。こ ま ゝ 〳〵 で い く わ ど も そ き
きゝ す ゝ 八 い ゝ で。ま べ て か ゝ ふ と び ん ま だ き ゝ ゝ)。ゝ ゝ ゝ